

HER2 コントロールブロックの作製法の検討

◎吉田 侑生¹⁾、藤岡 眞理¹⁾、小原 勇貴¹⁾、橋本 亜紀子¹⁾、萩原 愛弓¹⁾、池田 和人¹⁾、折田 恵¹⁾、田近 洋介¹⁾
国立大学法人 富山大学附属病院¹⁾

【背景】当院では今までHER2 コントロールスライドを購入していた。しかし入手困難となった。今回我々は、HER2 コントロールスライドの作製を行い、HER2 免疫染色の精度管理に使用できるか tissue microarray を用い検討を行った。

【方法】HER2 コントロールスライド作製に tissue microarray を用いた。1.包埋皿底部に両面テープを張り付ける。2.包埋皿に専用カセットをセットする。3.パラフィンブロックを面出しし、円筒の刃で目的の組織をくりぬく。4.くりぬいた組織片を包埋皿にセットする。5.パラフィンを添加し、60°Cで数時間放置して融合させる。6.組織芯をピンセットで両面テープに接着させ、冷却する。その後、HER2 免疫染色を実施し染色性を確認した。

【結果】作製した標本はいずれも HER2 陰性、(1+)、(2+)、(3+) となった。コントロールブロックとして精度管理に使用可能であった。

【考察】今回行った tissue microarray でコントロールブロックを作ることができた。他の方法に mille-feuille 法や sausage

block、spring-roll block と呼ばれる multi-tissue control block がある。しかし、mille-feuille 法は 100 μ m で薄切した切片を重ねて作製する方法であったため HER2 陰性部分を多く含んでいるブロックには tissue microarray が有利と考えられた。また、multi-tissue control block は切り出し時に組織の収集を行うため HER2 陽性部位を目的とするブロック作製には不向きであると考えた。tissue microarray はブロック全体が陽性部位でなくても選んで作製できる。しかしブロックに穴をあけるため再診断を行えない。再診断を行えなくなることを防ぐにはブロックにあける穴を小さくする、または陽性部分を多く含んでいるブロックを選び mille-feuille 法での作製を行うなどが考えられる。

【まとめ】tissue microarray で HER2 コントロールブロックを作製し良好な結果が得られた。今後 HER2 免疫染色精度管理に活用していきたい。

連絡先 076-434-7745